

# 城南高校同窓会報

編集・発行 ■ 京都府立城南高等学校同窓会

## 京都府立城南高等学校 閉校式典・懇親会のご案内

### 式典 <学校主催>

▶日時:平成21年3月21日(土)午前10時

▶会場:母校体育館 ※会場内入場人数に制限があります。閉校式典への出席を希望される方は、同封の「懇親会出欠ハガキ」にてお知らせください。

\*\*\*京都府立城南菱創高等学校 平成21年4月1日開校\*\*\*

### 懇親会 <同窓会・PTA共催>

▶日時:平成21年3月21日(土)午後6時(受付5時~)

▶会場:パルティール京都  
宇治市宇治樋ノ尻88 TEL 0774-25-7777

▶会費:6,000円  
同封の振替用紙にてお申込みください。

**お申し込み期限/3月6日(金)まで**

- 座席指定制(卒業年順)です。  
 食事:バイキングビュッフェ形式(テーブル毎)  
 飲み物(ビール・日本酒・焼酎・ジュース各種)  
 (予定内容)
1. 思い出を語る:卒業生(城南高等女学校・城南高校)
  2. 「城南の丘 66年の歩み」DVD上映  
 ※懇親会出席者には同DVDを進呈
  3. ハープ独奏:内田奈織氏
  4. 合唱(校歌・他):演奏・吹奏楽部08会/指揮:伊吹新一氏



伊吹 新一 氏



【交通】  
 JR宇治駅北出口:徒歩約15分  
 近鉄小倉駅:徒歩約20分  
 ※両駅前~会場間 送迎バスシャトル運行  
 行き:午後5時~6時まで  
 帰り:懇親会終了後

#### 京都府立城南高等学校同窓会

〒611-0031 宇治市広野町丸山10  
 京都府立城南高等学校内 TEL 0774-41-6165  
 同窓会HP ❖ <http://www.jyounan-alps.net/>  
 4月1日以降は… 〒611-0042 宇治市小倉町南堀池  
 京都府立城南菱創高等学校内  
 URL ❖ <http://www.kyoto-be.ne.jp/jonanyoso-hs/>

#### ◆紙面から

巻頭言・挨拶…………… 6	恩師の声・追悼…………… 20
クラブ活動の活躍	学年同窓会開催…………… 23
母校・同窓会の動き…………… 7	OB会だより…………… 25
統合校の展望・母校の現況… 12	賛助金会費ご協力者…………… 28
同窓会からの報告…………… 15	同窓会会計報告…………… 31



# 城南の丘はひろびろ・・・

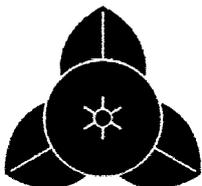


京都府立城南高等女学校時代 \*\*\*\*\*

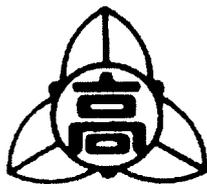


\*\*\*\*\*

### 校章の由来



向こう茶の実



校章

城南高等学校の校下である南山城の地は、古来銘茶を産し、又観光地としても歴史的に名高い宇治黄檗山、平等院と近接し人情地味共に豊かな地域を占めています。

本校の校章は「茶」に関する模様、「向こう茶の実」の家紋を図案化したものです。





# 城南の空はほのぼの・・・





# 城南の水ははろばろ・・・





# 「城南菱創高等学校」の開校に向けて

京都府立城南高等学校同窓会

会長 辻 輝夫 (十回)

日頃は同窓会運営にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今春の卒業生を会員に迎え、わが母校は創立以来66年の歴史に幕を下ろします。四月からは西宇治高校と統合し「京都府立城南菱創高等学校」として生徒の特性を育み、新しい時代に対応できる能力を養成する単位制高校に生まれ変わります。

私は平成15年3月の創立60周年記念同窓会と懇親会の席上で、少子化、社会のグローバル化が進む中で校区で生徒を決めるのではなく、生徒自身が自分の学校を決める時代になる旨を挨拶に交えましたが、その2年後の春に母校と西宇治高校との統合のニュースが浮上するとは想像もしていませんでした。

諸状況と周辺環境の大きな変化によって特色のある学校への変化が余儀なくされていた中で、歴代同窓会長、数多くの方々からのご意見を下に同窓会の方針を進めました。同窓会としては「京都府立城南菱創高等学校同窓会」を立ち上げ、城南部会と西宇治部会との構成によって当面の運営を進めることになると考えています。たとえ卒業した学校の名前が違って両校同窓会が

心の溝を作らず、近い将来お互いに高校時代の話を気軽に交わせるように最善の努力を尽くしたいと考えます。

我々は学校がどのように変わろうとも現役生徒を支援する最大のボランティア団体です。会員の皆さまにはいろいろな考え方をもちたいと思いますが、時代や社会の変化に対して懐旧の思いだけでは対応が及ばないことをご理解いただきたいと思えます。

今後の活動では、共に机を並べた仲間との親睦を深めていただくために学年同窓会への支援を重視していきます。

また、校地の移転に伴い、同窓会からの強い要望の結果、現在の校地の一部に「憩いの庭園」(平成23年完成)を設けます。校歌石碑のほか卒業時の記念植樹や石碑等をこの地に残すとともに卒業生二万六千名が学んだ足跡を永久に刻む記念碑を建立し、思い出に報いたいと考えています。

最後に新生「京都府立城南菱創高等学校」が卒業生の期待にこたえて広範な地域の中学生から選ばれるにふさわしい学校になるために、学校にも真剣に努力を重ねていただき、統合が真に評価されるよう心から願います。



# 城南高校同窓会報発行にあたり

京都府立城南高等学校

校長 谷本 義和

この度の同窓会報発行にあたり一言御挨拶申し上げます。

今日まで、本校の発展に寄与していただきました同窓会の皆様方のお力添えに対しまして深く感謝を申し上げる次第であります。

城南高校は、今年度をもって66年の歴史に幕を下ろすこととなりますが、「栗隈」の地に学んだ同窓生の思いは永遠のものだと考えます。昭和18年の高等女学校設立当時や、学制改革で城南高校となった昭和23年当時のことを記載した新聞記事がこの夏の整理の過程で見つかりました。その概要は「山城地域の人々の願いを具現化させた高等女学校であり、高校である」、「多くの人々の努力と情熱が学校を創り上げてきた」と表現するにふさわしい内容でありました。

平成21年4月には西宇治高校と再編統合し、「城南菱創高校」として新たな歴史が始まりますが、まさに城南高校の草創期の教職員やそこで学んだ同窓生の思いと同じ気持ちになる必要があると感じています。

城南菱創高校の教育目標を「自主創造」「真理探究」「社会貢献」としています。普通科の多様性に対し、現在城南高校に設置

されている専門学科「教養科学科」では、大学への接続を強く意識し、大学や研究機関等との連携や指定事業の活用、社会人講師の活用等々、生徒たちに「気付きの場」を設定しています。その中で「自ら学ぶ力」を付けるために、自分で課題を設定して学ぶミ等や、自主的に創造し、真理を探究できる生徒を育てたい、厚み・深みを追及していきたい、社会に出れば今まで学んだことを生かして社会に貢献できる生徒を育てたいと考えています。

城南菱創の校地には最新の設備を備えた新学習棟が完成しましたが、そこには両校の歴史を展示するメモリアルルームも設置されています。同窓生の方々の様々な思いを感じていますが、城南菱創高校を預かる身としては、在校する生徒に対する指導の充実、そしてこれから入学してくる生徒に選ばれる学校づくりに邁進したい、それが同窓生の思いにこたえることになると考えています。

今後とも御支援の程よろしくお願い申し上げます。

今後とも御支援の程よろしくお願い申し上げます。



<p>一九五九(昭和34)年</p>	<p>*サッカー…インターハイ府予選優勝・近畿大会3位・全国大会ベスト8 *体操…個人インターハイ府予選優勝 *ソフトテニス…インターハイ出場 *書道…全日本学校全国学生競書大会特選1名・銀賞2名 *バレー女子…インターハイ府予選優勝・全国大会・国体出場</p>	<p>同窓会誌第5号発行</p>	<p>《5代》森田 勝治</p>
<p>一九六〇(昭和35)年</p>	<p></p>	<p>同窓会誌第6号発行</p>	<p>《10代》廣瀬 浩二</p>
<p>一九六一(昭和36)年</p>	<p></p>	<p>同窓会報発行</p>	<p>《11代》田島 忠夫</p>
<p>一九六二(昭和37)年</p>	<p>コンクリート3階建本館(100番棟)竣工</p>	<p>第3回会員名簿刊行</p>	<p>《12代》中谷 英雄</p>
<p>一九六三(昭和38)年</p>	<p>コンクリート3階建校舎(200番棟)竣工 昼間定時制募集停止、全日制に家政科設置 新体育館竣工</p>	<p>同窓会報発行</p>	<p></p>
<p>一九六四(昭和39)年</p>	<p>*山岳…新潟国体出場</p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九六五(昭和40)年</p>	<p>*バレー女子…インターハイ府予選優勝・全国大会・国体出場</p>	<p></p>	<p>《6代》永田 正光</p>
<p>一九六六(昭和41)年</p>	<p>*合唱…京都合唱コンクール2位 定時制課程廃止</p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九六七(昭和42)年</p>	<p>*合唱…京都合唱コンクール1位 *剣道…女子個人団体・近畿総体府予選優勝 *山岳…インターハイ・大分国体出場 *バレー男子…近畿大会3位 *剣道…女子個人近畿高校新人大会府予選優勝・近畿大会3位・府総体・インターハイ府予選優勝・全国大会出場 *弓道…男子団体インターハイ出場 *弓道…女子団体インターハイ出場 *弓道…女子団体インターハイ出場 *ソフトテニス…インターハイ出場 *陸上…男子100M国体出場 *通学区域縮小(城陽高校開校に伴うもの) *弓道…女子インターハイ出場 *弓道…女子インターハイ出場 城南、城陽、東宇治(同年開校)3校総合選抜制となる</p>	<p></p>	<p>《7代》千阪 静一</p>
<p>一九六八(昭和43)年</p>	<p>コンクリート3階建校舎(300番棟)竣工</p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九六九(昭和44)年</p>	<p>通学区域縮小(八幡高校開校に伴うもの)</p>	<p></p>	<p>《8代》木村 正一</p>
<p>一九七〇(昭和45)年</p>	<p>*弓道…女子個人・男子個人・女子個人インターハイ出場 *陸上…男子100M国体出場 *通学区域縮小(城陽高校開校に伴うもの) *弓道…女子インターハイ出場 *弓道…女子インターハイ出場</p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九七二(昭和47)年</p>	<p>城南、城陽、東宇治(同年開校)3校総合選抜制となる</p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九七三(昭和48)年</p>	<p>*放送…NHK杯全国高校コンテスト出場 *弓道…女子個人・男子個人・女子個人インターハイ出場 *軟式テニス…インターハイ団体の部出場 *バトミントン…近畿大会個人の部出場</p>	<p></p>	<p>《9代》岡本 馨</p>
<p>一九七四(昭和49)年</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>
<p>一九七五(昭和50)年</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>

一九七六(昭和51)年	<p>*弓道…女子個人インターハイ出場 コンクリート4階建校舎(400番棟)竣工 *体操…国体出場 *弓道…男子個人・女子個人インターハイ出場 *放送…NHK杯全国高校コンテスト入賞 *弓道…男子個人インターハイ出場 家庭科募集停止</p>		【13代】浜口 勝
一九七七(昭和52)年	<p>*ESS…全日本高校英語ガイドコンテスト2位 *弓道…女子インターハイ出場 *放送…NHK全国高校ラジオ作品コンクール佳作 *陸上…女子インターハイ出場100M6位、200M4位 *ESS…全日本高校英語ガイドコンテスト1位 *弓道…女子団体・女子個人インターハイ出場 *剣道…京都スポーツ祭典剣道大会優勝</p>		【10代】柚木 一男
一九七八(昭和53)年	<p>*ESS…全日本高校英語ガイドコンテスト2位 *弓道…女子インターハイ出場 *放送…NHK全国高校ラジオ作品コンクール佳作 *陸上…女子インターハイ出場100M6位、200M4位 *ESS…全日本高校英語ガイドコンテスト1位 *弓道…女子団体・女子個人インターハイ出場 *剣道…京都スポーツ祭典剣道大会優勝</p>		【10代】柚木 一男
一九七九(昭和54)年	<p>*ESS…全日本高校英語ガイドコンテスト1位 *弓道…女子団体・女子個人インターハイ出場 *剣道…京都スポーツ祭典剣道大会優勝</p>		【10代】柚木 一男
一九八〇(昭和55)年	<p>*剣道…男子府総体優勝 *弓道…女子団体・女子個人インターハイ出場 *弓道…女子団体・女子個人インターハイ出場 *スキー…女子府高校スキー部駅伝優勝</p>	<p>第4回会員名簿刊行</p>	【11代】瀬戸 稲生
一九八一(昭和56)年	<p>*スキー…女子府高校スキー部駅伝優勝 *弓道…男子個人・女子個人インターハイ出場 *放送…NHK杯全国高校コンテスト入賞</p>	【11代】瀬戸 稲生	
一九八二(昭和57)年	<p>*弓道…男子個人・女子個人インターハイ出場 *放送…NHK杯全国高校コンテスト入賞 *弓道…女子・男子個人インターハイ出場・女子団体全国選抜大会ベスト8 *吹奏楽…近畿高校総合文化祭出場 *体操…近畿大会1名出場</p>	【12代】西野 是夫	
一九八三(昭和58)年	<p>*吹奏楽…近畿高校総合文化祭出場 *体操…近畿大会1名出場 *放送…府高校放送コンテスト1位、NHK杯全国高校コンテスト優秀賞 *弓道…女子インターハイ出場ベスト8 *スキー…女子インターハイ出場</p>	【12代】西野 是夫	
一九八四(昭和59)年	<p>*放送…府高校放送コンテスト1位 *弓道…女子インターハイ出場ベスト8 *スキー…女子インターハイ出場 *放送…府高校放送コンテスト1位 商業科募集停止</p>	【13代】尼子 定信	
一九八五(昭和60)年	<p>商業科募集停止 *弓道…女子インターハイ出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール金賞・近畿高校総合文化祭出場 *スキー…女子インターハイ出場 *陸上…男子国体5000M4位 *弓道…女子インターハイ出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール金賞</p>	【13代】尼子 定信	
一九八六(昭和61)年	<p>*弓道…女子個人インターハイ出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール金賞</p>	【14代】林 猛雄	



<p>一九九九(平成11)年</p>	<p>*演劇…近畿高校演劇研究大会優秀賞 *弓道…男子個人全国総合選抜大会府予選優勝・全国選抜大会出場 *陸上…インターハイ1110Mハードル出場</p>	<p>海外研修支援制度に変更。詳細は別梓(17頁)に掲載 漢字検定合格者表彰制度開始 同窓会報発行 賛助金会費制度開始 総会・講演会「芝居よもやま話」 劇団ちから座 代表 岩上 力(18回卒業)</p>	<p>《19代》山内 彰</p>
<p>二〇〇〇(平成12)年</p>	<p>*弓道…近畿高校弓道選抜大会団体男子3位</p>	<p>同窓会ホームページ開設 「英語を楽しむ会」開始。内容は別梓(17頁)に掲載 簿記、ワープロ検定合格者表彰制度開始 講演会「老人ボケについて」 近畿大学医学部 教授 梅村博也(8回卒業)</p>	<p>《20代》辻 輝夫</p>
<p>二〇〇一(平成13)年 二〇〇二(平成14)年 二〇〇三(平成15)年</p>	<p>*演劇…近畿高校総合文化祭演劇部門優秀賞 *弓道…女子団体全国選抜大会出場 創立60周年 *演劇…近畿高校演劇研究大会優秀賞 *弓道…女子個人全国選抜大会出場 *齋藤(荒川)裕理(第50回卒業生)…カルタ競技日本一・第47期クイーン位獲得 *スケート…男子個人国体・インターハイ出場 6月 府会で西宇治高校との再編決定 *弓道…男子団体近畿高等学校選抜大会出場 *体操…女子個人インターハイ出場 *スケート…男子個人国体・インターハイ出場</p>	<p>同窓会報発行 同窓会報発行 60周年記念式典・総会(ウエスティン都ホテル京都) 第6回会員名簿刊行</p>	<p>《20代》内田 一孝</p>
<p>二〇〇四(平成16)年 二〇〇五(平成17)年</p>	<p>6月 府会で「京都府立城南菱創高等学校」と新校名決定 *書道…全国高校総合文化祭出品 *体操…女子個人国体出場。女子団体京都府新人選手権大会優勝 *スケート…男子個人国体・インターハイ出場 単位制に改編 *体操…女子団体近畿大会出場・京都府新人選手権大会優勝。女子個人インターハイ出場</p>	<p>同窓会報発行</p>	<p>《21代》西山 正文</p>
<p>二〇〇六(平成18)年</p>	<p>6月 府会で「京都府立城南菱創高等学校」と新校名決定 *書道…全国高校総合文化祭出品 *体操…女子個人国体出場。女子団体京都府新人選手権大会優勝 *スケート…男子個人国体・インターハイ出場 単位制に改編 *体操…女子団体近畿大会出場・京都府新人選手権大会優勝。女子個人インターハイ出場</p>	<p>同窓会報発行</p>	<p>《22代》谷本 義和</p>
<p>二〇〇七(平成19)年</p>	<p>9月1日 京都府立城南菱創高等学校開設 *体操…女子個人インターハイ出場・国体出場・団体近畿大会出場 *弓道…女子団体近畿大会出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール小編成の部金賞・きらめき賞 ※予定 3月21日 閉校式典開催</p>	<p>同窓会報(最終版)発行 同窓会報(最終版)発行</p>	<p>《初代》谷本 義和(兼務)</p>
<p>二〇〇八(平成20)年</p>	<p>9月1日 京都府立城南菱創高等学校開設 *体操…女子個人インターハイ出場・国体出場・団体近畿大会出場 *弓道…女子団体近畿大会出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール小編成の部金賞・きらめき賞 ※予定 3月21日 閉校式典開催</p>	<p>同窓会報(最終版)発行</p>	<p>《初代》谷本 義和(兼務)</p>
<p>二〇〇九(平成21)年</p>	<p>9月1日 京都府立城南菱創高等学校開設 *体操…女子個人インターハイ出場・国体出場・団体近畿大会出場 *弓道…女子団体近畿大会出場 *吹奏楽…府吹奏楽コンクール小編成の部金賞・きらめき賞 ※予定 3月21日 閉校式典開催</p>	<p>同窓会報(最終版)発行</p>	<p>《初代》谷本 義和(兼務)</p>

# 城南菱創高校、今後の展望



城南菱創高校外観 (現西宇治高校校地)

科ともに府内全域となる。

さて、単位制高校について知っていただくため、少し説明を加えたい。単位制高校のメリットは、端的に述べると、「選択科目の多さ」と「少人数講座(↓きめ細かな学習指導)」にある。普通科での比較をすると、単位制の場合、選択科目の総単位数は学年制の4倍近くの40数単位に上る。これは、単位制高校の設置目的が、そもそも『多様な進路ニーズ』に 대응することであり、そのためには選択科目を多く設定する必要がある。「選択科目が多い↓少人数講座の開設↓より多くの教室&教員が必要↓手厚く、きめ細かな学習指導が可能(生活指導や部活動指導も同様)」との推測は容易であろう。

単位制による全日制課程で普通科と専門学科を併置している高校は全国的にも例が少なく、特に城南菱創高校の場合は、在籍生徒の80%以上が4年制大学へ進学する「進学重視型」の単位制高校となるので、全国的な注目を集めることが予想される(既に、他府県から管外視察の申込みが増えてきている)。

学校規模としては、一学年6学級規模の高校(普通科…4学級、専門学科…2学級)となり、全校生徒数は720名程度となる。また、通学区域は、普通科・専門学

科(教養科学科・人文・社会科学系、自然科学系、各1学級)が設置された。「専門学科」という言葉を何気なしに使ってきたが、城南高校に設置された専門学科は、農業、工業、商業といった職業系の専門学科ではなく、『大学の接続』を目指す、新しいタイプの専門学科である。

教養科学科には、①西宇治高校が平成9年以来、単位制普通科として築いてきた「進学実績」、②単位制高校が持つ「本来の機能」をそれぞれバージョン・アップすることが求められている。そのためには、大学や研究機関等との連携を図りながら、他校にはない「斬新な取組」、ハイレベルな魅力ある「教育活動の展開」が必要となる。幸いなことに学術顧問の3人の大

余談ではあるが、京都府の府立高校の場合、一般の高校(学年制普通科)の適正規模を一学年8学級としているのに対し、単位制高校では、一学年6学級としている。次に、専門学科について述べておきたい。平成19年度に城南高校が学科改編をし、単位制の専門学

ただき、準備は着々と進んで来た。また、昨年7月末に西宇治高校校地に完成した「新学習棟」には、メモリアルルームや図書室に加え、最新の設備や備品の整ったサイエンス・ラボ(理科実験室)、CAL Learning: コンピュータを使って

語学学習を支援するシステム)教室、コンピュータ教室、多目的ホール(体育や研究発表に使用)などが設けられ専門学科としての真価が問われる日は近い。

最後に、城南菱創高校の展望に



学校説明会 (2008年8月23日)

ついて語りたい。昨年8月23日に開催された第1回学校説明会には、関係者の予想をはるかに上回る千百人もの中3生・保護者の参加があり、府民の関心と期待の高さを実感した。

本来、教育において大切なのは、教育内容、施設・設備、そして何より教職員の教育にかける熱意・情熱である。この三つが揃えば、生徒は結果として自然に集まる。長年に渡り、城南高校が山城地域

の基幹校として果たしてきた役割を継承するためにも、未来志向で、近視的にならず、次元の高い教育、スケールの大きな教育を創造したいと考えている。

平成20年9月1日には城南菱創高校が設置され、初代校長として谷本義和氏が就任した(城南高校校長を兼務)。谷本氏は、府教育委員会以西宇治高校に単位制普通科を設置することに尽力し、今日の西宇治高校の礎を築いた人物である。

単位制普通科の魅力は、「何といても多様な進路ニーズに対応できるカリキュラム(自分で作る時間割)」にある」と谷本氏は言う。一言で表現すれば『多様性』である。



校名板設置 (平成20年9月1日)

城南菱創高校では、「高い学力」と「探究の精神」を涵養して大学への接続を目指す専門学科が併置され、いわば『専門性』が加わることになる。「多様性」と「専門性」、換言すれば、「幅」に「厚み」が加わり、いよいよ理想とする『単位制高校の完成』を迎えることになる。

冒頭で城南菱創高校は、「進学重視型」の単位制高校であると述べたが、現在、普通科(西宇治高校)では、生徒の70%が4年制大学へ進学している。教養科学科においては、4年制大学進学100%を前提として学科が設置され、その目的を達成するために教育課程の編成やプログラム開発等、先進的な教育内容の創造にエネルギーを傾注してきた。

従って、普通科と専門学科を合計すると、最初に述べたように80%以上の生徒が4年制大学へ進学する高校となる訳である。普通科(西宇治高校)での過去の進学実績及び教養科学科の見込みを含め総合的に判断すると、卒業生の40%近くが国立大学か難関私立大学へ進学する高校となるのにそう長い年月を要することはないと思われる。

部活動では、既にサッカー部と野球部が合同チームで大会に参加し、新聞紙上等で報道されている。城南菱創高校として、来春から近畿大会や全国大会への出場が期待できる体育系クラブとしては、体操部、ハンドボール部、弓道部、ウエイトリフティング部などが挙げられる。また、現在活動が盛んな文化系クラブは、吹奏楽部、放送部、美術部、ボランティア部などがある。

部活動については、当面、既存クラブの活動を保障することに重点が置かれるが、学校の特色化を推進するために、近い将来、強化クラブを設定するような発想があっても面白い。

自主活動で敢えてもう一つ特筆するならば、演劇がある。西宇治高校では、文化祭での演劇が学校の良き伝統となり、例年完成度の高い演劇が披露されている。「演劇は総合芸術、クラス劇はクラスの総和」とよく言われる。城南菱創高校としても、純粋な創作活動を通して、創造性や集団としての規律、仲間意識を高めたい。

『確かな進路実現』と『充実した自主活動』を2大テーマとし、城南菱創高校がいよいよ開校する。



多目的ホール



CALL教室



新学習棟 (外観)

## 《平成20年7月末に完成した新学習棟》

写真のほかに、『メモリアルホール』、『コンピュータ教室』がある。

Since 2009  
Jonan Ryoso



サイエンス ラボ



図書室

# 母校の現況

最初に、城南高校の現状を簡単に報告させていただきたい。平成20年度の城南高校は学級数僅か9学級、在籍生徒数318名と極めて小規模校である。これは、今年度が、『城南菱創高校』の開校に向けての移行期2年目に当たるからである。平成21年4月、城南高校と西宇治高校は発展的に統合し、西宇治高校校地にて城南菱創高校として開校する。

現在、城南高校では、第一学年と第二学年は「単位制専門学科(教養科学科)」各学年2学級、第三学年は「学年制普通科」5学級、という構成になっている。つまり一つの学校に「単位制専門学科」と「学年制普通科」が混在するというたいへん珍しいケースになっている。また、現3年生が城南高校生としての最後の卒業生となる。現2年生と1年生は、城南菱創高校のそれぞれ第1期生、第2期生として卒業することになっている。話題を変えて、懐かしい校舎について少し触れたい。全校生徒数

が2000名を超え、校舎内に生徒がひしめき合っていた時代を考えると、310数名の生徒がこの緑豊かな広大な敷地内の広々とした校舎(現在200〜400番台を使用)を我が物顔で闊歩できるとは羨ましい限りである。明るく伸び伸びとした雰囲気の中で今日も笑い声が校舎内に心地よく響いている。

次に、部活動で本年度活躍したクラブを紹介しよう。村谷教諭の熱心な指導により、体操部が女子個人総合で2年連続全国大会(インターハイ)への出場を果たした。昨年の五十嵐結選手に続き、木下左が木下(3年)、右が坂本(2年)選手



万梨子、坂本実香選手が出場！弓道部も女子団体の部で、南裕里恵、原口直子、田井美里、津根悠選手が第61回近畿高等学校弓道大会に出場を果たした。文化系クラブでは、吹奏楽部が第45回京都府吹奏楽コンクール《小編成の部》において「金賞」を受賞した。以前より、活躍したクラブ・選手ならびに各種検定合格者に対しては同窓会から激励金をいただいている。学校より感謝とお礼を申し上げておきたい。

また日中21世紀交流事業では、教養科学科2年の女子生徒13名が、中国の招きで昨年6月に6泊7日の日程で北京市、長春市、大連市等



弓道部女子近畿大会出場。左から津根悠、南裕里恵、原口直子の各選手



日中21世紀交流事業での訪中団

を訪れた。滞在中は、当地の学校訪問やホームステイ等を通して同世代との交流を深めた。\*一昨年10月に本校が中国の高校生17人の訪問を引き受け、ホスト

役を務めたことが評価された。今回の訪中団は総勢100名。団長は谷本義和(本校校長)、京都府からは45人の高校生が参加した。建設中の弓道場(西宇治高校校地)



【城南菱創高校へのアクセス】  
● 近鉄小倉駅から徒歩10分  
● JR小倉駅から徒歩18分

# 同窓会からの報告

## 城南高校同窓会から

### 城南菱創高校同窓会へ

#### 一、城南高校同窓会の歩み 二、同窓会の充実・発展期

戦前の昭和18年、城南高等女学校が開校し、第1期生が戦後昭和22年に卒業されました。翌昭和23年には城南高等女学校同窓会が設立されました。学制改革により校名が城南高等学校となった後の卒業生を受け入れるようになってからは、「城南高等女学校・城南高等学校同窓会」と名称も変わりました。

当時は、同窓会といっても、設立後の日も浅いので、20歳前後の若者たちが活動が担われました。

昭和29年には同窓会名簿を発行し、昭和30年から35年までは毎年同窓会誌が発行されています。紙面をみると、職場や大学、地域単位の支部が設けられ、それぞれの支部からの報告がなされており、若かりし先輩諸氏の心意気を見せ付けられます。

#### 昭和37年に第3回会員名簿が発行された後、しばらくの間停滞の時代が続きました。しかし、昭和56年に第4回、昭和62年には第5回の会員名簿が発行され、整備された名簿を利用して、平成元年には京都パークホテルにおいて創立45周年記念式典が盛大に挙行されました。わが同窓会を二期に分けるとすれば、この式典の前後で分けることになるでしょうか。

この時期になると、会員の中には50歳を超え、時間的な面で同窓会活動に関わるゆとりのある人が増え、活発な活動がなされるようになりました。まず、会報の継続的な発行が復活しました。また、平成5年に50周年の節目の年を迎えるにあたり、当時の河野司校長からの提案もあり、在校生を英国へ語学留学させるという極めてユニークで積極的な学校支援事業が

始まりました。この制度は、後に漢字検定、ワープロ検定を対象を広げた表彰制度へと発展しました。

他方、同窓会会員が集まる機会を増やすため、理事会や総会前後に講演会を開催するようになりました。その他、学校と共に、地域住民を対象とする城南講座も担当しました。更に、同窓会事業として市民向け英語講座も立ち上げ、現在も継続しております。

ところで、このような事業を継続するためには、入会時の同窓会費だけではとても足りません。そこで、平成11年の会報発行に合わせ賛助金会費を集めるようになりました。同窓会員の熱い思いを今後の同窓会活動にも生かして行きたいものです。

#### 三、新時代、城南菱創高校同窓会へ

城南高校は、西宇治高校と統合され、新たに城南菱創高校として再出発します。

同窓会は、学校とは別の組織ではありませんが、学校とは切っても切れない関係にあり、学校の統合に準じて同窓会も統合し、統合した同窓会が統合校の卒業生を受け入れて行くのが、自然な成り行き

であり、かつ府教委が統合理由の説明で強調していた「伝統の継承」という考えにも合致すると考えられます。

そこで、同窓会では、理事会において、後記するような同窓会統合案を決議しました。この案は、学校の統合に合わせて同窓会を統合しつつも「城南部会」、「西宇治部会」、「城南菱創部会」という部会制をとることにより、それぞれの独自性を確保しようとするものです。

同窓会では、西宇治高校同窓会会長にもこの案を示して、統合について協議を進めることを申し入れました。しかしながら、真に残念なことに現在(\*08・11・3)のところ、協議にさえ応じて頂けない状態が続いております。したがって、当面の間は残念ではあります。城南部会と城南菱創部会の二部会制で進めて行かざるを得ないこととなります。城南菱創高校同窓会も、これまでの城南高校同窓会同様、意義ある活動を活発に続けて行けることを期待しております。

## <同窓会活動の源泉> 賛助金会費のお願い

名前は変わりましたが、これからも同窓会は城南菱創高校と共に歩み続けることとなります。既に会員数が2万6千人に及び、今後更に増え続けて行きます。我が同窓会がこれまでどおり活発な活動を維持し、学校へも十分な支援を継続するためにはこれまでに増して費用が必要となります。

会員諸氏におかれましては、是非、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。1口2,000円としていますが上限は設けません。どしどしご支援の程お願いいたします。

## 移 転 後 の 姿

校地移転に伴い、学校と同窓会では次のような計画を進めています。

### 1. 現校地の跡地利用

現校地の跡地には「特別支援学校」(知的障害者・肢体不自由者対象)が新設されます。

京都府内全体の特別支援教育の拠点校として平成23年4月に開校予定です。

現在の校舎等の建物は新体育館(平成5年竣工)以外全て平成21・22年度に解体・建築工事に入る予定です。なお、グラウンドの跡地利用・活用は未定です。

### 2. 記念庭園の造園

同窓会の強い要望により、新体育館北側に260㎡の記念庭園を造園します。桜、橘などの植樹とともに、現存の「校歌歌碑」「不動智の碑」を移転し、26,000名に及ぶ卒業生の足跡を永久に刻む「記念碑」を新たに建立します。

完成予定日は平成23年3月末日です。同年度より開校となる「特別支援学校」構内への入校には相応の配慮が必



記念庭園予想図

入口より 左から「不動智の碑」、「記念碑」、奥に「校歌歌碑」

要とされますが、所定の手続きを経れば同窓生には庭園の見学ができるようにします。

完成後には旧日を顧みて大切な思い出の時間をお過ごしください。委細は後日同窓会ホームページ内(27頁に紹介)でご案内します。

### 3. 資料等の保存

学校・同窓会関係の各種記念品・資料類は城南菱創高校内のメモリアルホールにて展示・保管します。

## 城南高校、西宇治高校統合(21年度)に向けての同窓会統合(案)

(人数、割合などの数字は仮のもの)

### 統合後の同窓会の概要

1. 名 称：京都府立城南菱創高等学校同窓会  
事務局所在地：京都府立城南菱創高等学校内

#### 2. 会 員

正 会 員：京都府立城南高等女学校・京都府立城南高等学校・京都府立西宇治高等学校・京都府立城南菱創高等学校卒業生

特別会員：京都府立城南高等女学校・京都府立城南高等学校・京都府立西宇治高等学校・京都府立城南菱創高等学校の現・元教職員

#### 3. 部 会

本会には次の部会を置く。

城 南 部 会：京都府立城南高等女学校・京都府立城南高等学校卒業生で構成する。

西 宇 治 部 会：京都府立西宇治高等学校卒業生で構成する。

城南菱創部会：京都府立城南菱創高等学校卒業生で構成する。

#### 4. 役 員

- |           |       |
|-----------|-------|
| (1) 会 長   | 1 名   |
| (2) 副 会 長 | 2 名   |
| (3) 会 計   | 1 名   |
| (4) 部 会 長 | 各 1 名 |
| (5) 理 事   | 学年理事  |

(6) 常任理事 10 名 各部会から最低2名以上

#### 5. 統合時資産

統合時、双方資産の全てを統合後の同窓会に移す。

#### 6. 会 費

入 会 時：義務会費

賛助会費：任意会費

#### 7. 会 計

一般会計

部会会計：城南部会会計・西宇治部会会計・城南菱創部会会計

#### 8. 部会会計の収入

【城南部会の収入】

統合時城南高校同窓会から移管した資産の2分の1  
城南部会員が納めた賛助会費の2分の1

【西宇治部会の収入】

統合時西宇治高校同窓会から移管した資産の2分の1  
西宇治部会員が納めた賛助会費の2分の1

【城南菱創部会の収入】

城南菱創部会員の納めた会費の2分の1

城南菱創部会員の納めた賛助会費の2分の1

### 統合時期

遅くとも統合された学校の第1回目の卒業生が出るまで。

# 海外派遣支援制度事業・海外研修支援制度

## 1. 海外派遣支援制度事業

創立50周年記念事業として平成5～9年度の5ヶ年間に実施。  
英語検定2級以上の合格者で留学希望者を対象とする。

年 度	該 当 者		( )は留学年月
平成5年度	なし		
平成6年度	西埜有紀子(平成7年3月)		
平成7年度	物部(森)凡子(平成7年7月)	丹治 香織(平成8年3月)	
平成8年度	奥西 史樹(平成8年7月)	中村 典子(平成9年3月)	
平成9年度	宮城紀美子(平成9年7月)	陶山 永史(平成9年8月)	

※平成9年3月発行の同窓会報に「海外派遣だより」を報告・掲載

## 2. 海外研修支援制度

「海外派遣支援制度事業」を「海外研修支援制度」に改称し、事業を継続する。(平成9年12月6日の理事会にて承認)

年 度	該 当 者		( )は留学年月
平成12年度	長戸 結末(平成12年7月)	手塚 沙織(平成12年12月)	
平成13年度	土井田麻季(平成13年7月)	山田 悠(平成13年12月)	
平成16年度	陶山 淳子(平成16年8月)		
平成17～19年度	なし		

※平成17年7月発行の同窓会報に「海外研修支援制度について」を報告・掲載

## 3. 英語検定合格者で海外研修に行かなかった者

同窓会より図書券を贈呈

年 度	該 当 者							
平成11年度	浅田 年計	高美さおり						
平成12年度	多喜 辰則	梶田 公二	南 由岐子	晝間 敬	小森 浩充	前田亜希子		
	柿本 祐一	金谷 道子						
平成13年度	なし							
平成14年度	なし							
平成15年度	柿本 喜昭	向野 華						
平成16年度	柳生 佳織	下山 香織	宮下 卓也					
平成17年度	福田ひろ子							
平成18年度	金山 暁史	中森 一恵						
平成19年度	なし							

市民  
公開  
講座

## 「英語を楽しむ会」展望

講 師 小出 澄生 (4回)

英語の世界を楽しむ集いは、気がつけば8年目に入っている。先日「私、発会式から精勤ですよ」と言うご高齢の女性受講者に続いて「継続は力なりです」と男性受講者が言う。「お互いに無理せず楽しいから続けるのね」と皆で自画自賛、改めて8年目を実感するのであった。確かに、無理していれば8年続く筈はなからう。

小生がこの講座の講師を頼まれた時、「目的は？」と問い返した。同窓会の掲げる趣旨(地域社会への奉仕還元)はよく解るが、それは一時の思い付きや単なる心意気だけでは続かない。小生はそれを案じつつバックアップで起動。小生の奉仕意欲を強めたのは熱心な受講者である。同窓会主催をしっかり信頼して真面目に取り組まれる態度と真剣な質問であった。これにはお応えせねばなるまいと小生の気持ちは徐々に固まり続けている。

受講者は英語の世界に興味、関心、体験がありガムシャラでなく自然に楽しく英語の文化、教養に親しんでいる。



「英語を楽しむ会」に参加して3年になります。同窓会理事の母の紹介で入らせていただきました。小泉八雲を読んでいると聞いていますが、他にも英国の歴史、小説、詩、英語に纏わるコラム等、様々な角度から英語に接することができています。講師の小出先生は長らく大学、高校で英語、仏語を教えて来られ、八雲研究の第一人者でもあります。知識の豊かさ、様々な文化への造詣の深さに感銘を受け、学ぶことの多い会です。所謂「英会話教室」ではなく、文化の違いを認識したうえでの人間理解、コミュニケーションについてお話しくださるので、実際に役立つことも多く、楽しく通っています。また、メンバーの方々も人生経験が豊かで知識が豊富で、多くを学ばせていただいています。今後もこの楽しい英語の会が長く続きますように願っています。(古田 民 28回)

# 各種表彰・クラブ活動補助

## ■ 各種検定

年度 項目	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
全商 ワープロ検定	1級合格…3名 2級合格…36名	1級合格…2名 2級合格…29名				
日本実用 英語検定	準1級合格…1名 2級合格…2名	2級合格…3名	2級合格…1名	2級合格…2名		2級合格…3名
日本漢字 能力検定	2級合格…10名	2級合格…17名	2級合格…7名	2級合格…2名	2級合格…2名	
実用数学 技能検定				2級合格…1名	2級合格…4名	

## ■ クラブ活動

### ■ 演劇部

【平成15年度】

第38回近畿高校演劇研究大会

【平成20年度】

第27回全国高校弓道選抜大会 (女子団体)

近畿高校弓道大会 (女子団体)

### ■ 書道部

【平成18年度】

第30回全国高校総合文化祭出品 (女子1名)

### ■ 体操部

【平成16年度】

近畿大会新体操 (女子1名)

【平成17年度】

全国高校総体 (新体操: 女子1名)

近畿大会 (体操: 男子1名・新体操: 女子1名)

【平成18年度】

第60回近畿高校体操競技

【平成19年度】

近畿大会 (女子団体・女子個人1名)

全国高校総体 (女子1名)

近畿大会 (女子団体4名・女子個人2名)

第61回国体体操競技 (女子個人1名)

【平成20年度】

近畿大会 (女子団体4名・女子個人1名)

国体 (女子個人1名)

全国高校総体 (女子個人2名)

### ■ 吹奏楽部

【平成15年度】

第29回定期演奏会開催

【平成16年度】

第30回定期演奏会開催

【平成17年度】

第31回定期演奏会開催

【平成18年度】

第32回定期演奏会開催

【平成19年度】

第33回定期演奏会開催

### ■ 弓道部

【平成15年度】

第22回全国高校弓道選抜大会 (1名)

【平成16年度】

近畿高校弓道大会個人の部 (男子2名)

【平成17年度】

第13回近畿高校弓道選抜大会 (男子団体)

【平成18年度】

近畿高校弓道大会個人の部 (男子2名)

【平成19年度】

近畿高校弓道大会女子上級の部 (女子1名)

### ■ スケート競技

【平成16年度】

第60回冬季国体スケートフィギュアの部 (男子1名)

全国高校総体スケートフィギュアの部 (男子1名)

【平成17年度】

第61回冬季国体スケートフィギュアの部 (男子1名)

全国高校総体スケートフィギュアの部 (男子1名)

【平成18年度】

第62回冬季国体スケートフィギュアの部 (男子1名)

全国高校総体スケートフィギュアの部 (男子1名)

# 主な活動報告

- 平成16年度
  - 11月6日 第1回常任理事会・理事会<事業報告、会計報告、会計予算、賛助会費募金>
  - 2月19日 第2回常任理事会・理事会<平17・18年度役員改選、会報の発行、総会開催>
- 平成17年度
  - 6月11日 第1回常任理事会・理事会<総会運営、事業報告、会計報告、会計予算、会報発行、山城地域の府立高校再編整備>
  - 9月10日 総会、記念講演
- 平成18年度
  - 9月10日 第1回常任理事会・理事会<事業報告、会計報告、会計予算、城南・西宇治高校との「統合準備委員会の設立」>
  - 11月18日 第1回統合設立委員会
  - 2月17日 第2回常任理事会<平19・20年度役員改選、会報発行>
  - 3月18日 第2回理事会<平19・20年度役員決定、統合準備委員会委員決定、平19年度総会中止、平20年度会報発行>
- 平成19年度
  - 5月18日 第1回閉校準備委員会<閉校記念式典(学校)、記念事業>
  - 6月8日 第2回閉校準備委員会
  - 8月4日 第1回常任理事会<事業報告、会計報告、会計予算、会報編集委員の選任、閉校準備委員会の設立(学校)>
  - 11月17日 第2回常任理事会・統合委員会合同会<会報最終版発行編集の決定、統合に向けての同窓会のあり方>
- 平成20年度
  - 7月12日 第1回常任理事会・理事会<事業報告、会計報告、会計予算、統合に向けての基本方針、閉校記念事業(閉校式=学校、閉校記念懇親会・閉校記念庭園の整備・記念碑の設置=同窓会)>
  - 8月13日 第3回閉校記念実行委員会<記念式典の開催(学校)、懇親会の開催、会報発行、記念設置、ファイナル演奏会の開催>
  - 9月11日 閉校記念懇親会実行委員会<懇親会次第>

## 学校公開講座「城南講座」 (同窓会担当分)

年度	講座名称	No.	日時	学習内容(テーマ)
平成5	宇治の文化と伝統 みやびの世界を訪ねて	1	平成5年9月26日	「宇治茶の文化史」
		2	平成5年11月7日	「王朝の文学2」—宇治十帖史跡めぐり—
平成6	世界の食と文化 国際化の流れのなかで	3	平成6年9月25日	「アオサイ」の映える街 —ベトナムの食と文化—
		4	平成6年11月6日	「ドンブリ・トックリ・チョコ」 —朝鮮半島の食と文化—
平成7	書と日本の伝統文化 うつくしい かなの書	5	平成7年10月22日	「小野小町の伝統に触れる」
		6	平成7年11月25日	「刻字」
		7	平成7年12月2日	「刻字」
平成8	書と日本の伝統文化Ⅱ うつくしい かなの書	8	平成8年10月12日	「世界遺産と国宝」
平成9	書と日本の伝統文化Ⅲ うつくしい かなの書 漢字仮名交じり文を書く	9	平成9年11月15日	「江戸初期の文化と施策について」
平成10	宇治の歴史散歩 お茶と茶器など	10	平成10年10月17日	「宇治茶のあゆみと日本文化」 —すべてのルーツは宇治にあった—
平成11	宇治の歴史散歩 宇治の地にまつわる歴史を学ぶ	11	平成11年10月2日	「宇治の歴史遺産」
平成12	宇治の歴史・味覚散歩 山城地方や宇治の地にまつわる 歴史や地域産業から学ぶ	12	平成12年11月4日	「京田辺市の由緒ある寺々を訪ねて」 —観音寺・一休寺・大徳寺— *口絵(4頁左下)に写真掲載
平成13	最先端技術を訪ねて 南山城の過去～現在～未来	13	平成13年10月25日	「現在の最先端見学=学研都市」

# 恩師の声

## 社会科 乾 幸次

京都府立城南高等学校は、卒業生の心の「ふるさと」です。城南高校の校名がなくなるのは残念なことです。

南山城の人々の努力により戦前に創設された古い歴史をもつ「城南高校」です。

私は社会科地理を担当し、地歴クラブの責任者でした。地歴クラブは校外へ出て活動する機会が多かったです。

地歴の授業は地図帖と掛地図を中心に行い、みんなよく勉強したことはうれしいことでした。

## 体育科 藤川義人

『感動の城南、城南の魂とお互いの友情は永遠です』

昭和30年4月から36年3月まで城南高等学校教諭を拝命しました。城南の丘はひろびろ：：教職員や生徒の皆さんとともに歌った校歌は今なお私の懐かしい、忘れられない心の一頁になっています。恒例の学校行事のひとつであっ

た合唱コンクールで生徒の皆さんと一緒にステージに上ったとき、

臨時に設置された後列の横長椅子の上で歌っている間に椅子が揺れだして、誰からともなくガタガタと震えが始まって大慌てしたことが懐かしく思い出されます。

クラブ活動では、女子バレーボール部や合唱部などに続いてサッカー部も頑張りました。昭和33年1月、第36回全国高等学校選手権大会で見事に京滋大会を勝ち抜き、全国大会ではベスト8まで進出しました。

今、現実の京都府立城南高等学校の教育活動が無くなるうとしていますが、京都府立城南高等学校と京都府立城南高等学校同窓会の名前は不滅です。いつも在校生、教職員、卒業生、各部OB会、PTA：：全ての人々の心がひとつになって頑張つて来られた城南高校の火が消えてゆくのかと思うと淋しさに堪えられません。私が城南高校への辞令を頂いてから今や53年を経ました。母校は消えようとしています。城南高



昭和42年9月15日 第1回城南—洛北定期戦

校の名は不滅です。先達の労を讃え、友を愛し、郷土を愛し、美しい城南文化を大切に、卒業生の皆さまがより豊かに、より美しく、頑張ってくださいることを念願しています。

## 理科 竹下克彦

私が府立城南高校に赴任いたしましたのは昭和34年4月のことで、その当時の城南高校の第一印象は北側に「礼法室」が現存しており、旧教室は元気な生徒が一斉に起立すると窓枠から窓が倒れることもある状況でした。

そのような学校にあつても多くの教員、生徒には「ぼく等の青春」を謳歌する自由な雰囲気は漲っていたと思います。私個人の立場から申せば、当時



平成15年11月16日 生物クラブOB会 於花やしき

の学校長が中学(旧制府立桃山中学)1年5組の担任であり、生涯の恩師とのめぐり会ひでした。私にとって教育に向う条件は整っていたでしょう。30代まっただ中で生徒を集め、専門教科に近い「生物クラブ」を組織し、当初は5、6名だった部員も年毎に増え、クラブ活動費も生徒会予算で年々倍増する盛況でした。

そのおかげで毎年の4泊5日の「臨海実習」(一から十まで自前。交通費・宿泊費合わせて6千円位)での宿泊には寺社、林間では国立大学演習林を活用させていたできました。福井県若狭地方、京

都府丹波・丹後、兵庫県但馬、三重県伊勢志摩地方、演習林は鈴鹿山脈、京北町の京大芦生演習林等々、その他舞鶴湾の冠島(オオミズナギドリ生息地)、鳥羽湾の島にも宿泊しました。

その当時の若い生物部員も皆一様に当時の憶い出を各自の胸に刻み、夫々に立派に社会で役立ってくれている姿を目にして心から喜んでる次第です。

※竹下先生には病床よりご寄稿をいただきました(編集部)。

## 書道 森 實

昭和36年4月の赴任以来12年間お世話になりました。教員生活の1/4が城南高校の勤務です。それだけに愛着のある学校で、閉校になると知り、驚き、惜しんでいます。

校舎に挟まれた校庭の中央に立派な桜の樹が見事な花を咲かせていました。団塊の世代が高校に入学した頃で、一クラス約50人が全校で46、47クラスもありました。大阪で博覧会のようなものがあり、バス45台ほどを連ねて見学に行ったのは壮観でした。修学旅行も九州や東北方面に三班で行ったものです。赴任してすぐに三年の担任となり

ました。その三年生が教員生活で初めて送り出した卒業生となり、思い入れも一入です。当時は専ら就職の生徒に頭を痛めていました。生徒指導や家庭訪問のために今の京田辺や八幡市まで足を運びました。

クラブ活動は運動部は勿論ですが文化部も盛んでした。合唱、美術、書道の他にも生物、化学、天文、文芸部などが活動し、文化祭では各々発表を行い、展示の説明でも活き活きとしていました。

書道部では部員も多く、文化祭の展示が一教室では収まらない作品数で、会場確保、展示幕の調達に頑張ってくれました。「京展」に当時一年のM君が高校生で入選して話題になりました。一緒に何日も、何枚も書いたものです。

まだラグビー部はなく、着任2年目に二年生の数名が楯円のボールを持って走りたいたって来ました。前任の鴨沂高校で監督として花園出場の経験があり、喜んで顧問を引き受けました。剣道との掛持ちです。

翌年、部に昇格し本格的に練習を始めました。当時は備品やユニフォームを揃えるのも難しい時代でした。夏の合宿は教室を宿舍にし、食事は女子マネージャーが家庭科教室で調理してくれました。

公式戦に参加し、春の総体で立命館高校に勝った新聞記事「新鋭城南、古豪立命館を破る」も痛快な想い出です。

### 社会科 早瀬哲恒

城南へは昭和38年4月に赴任した。小さな加悦谷からマンモス校の城南へ、同僚合わせて13名だった。森田校長から「転勤して来るんだつたら家ぐらい決めとけ」と言われ頭に来たが、あんな偉大な校長はもう出ないだろう。

丹後から府南部へ移るなら「一気に老ノ坂を越えんといかん」と加悦谷高校の三野校長が手配してくれたのだ。ちょうど地理が一年生で必修となった年で大阪への異動の話があつたのだが、府が放棄なかつたと後で聞いた。

地理は「乾大先生」がおられ、同じく先輩の山田先生と一緒に赴任し、三人で分担した。郷土研究部だったか、校門前での自動車通過量調査や明日香探訪等が思い出される。

クラブと言えば、城南在職中の大半以上サッカー部の顧問をした。監督は城南出身のGK、やはり同期赴任の岡本先生。一番の思い出は長居競技場での近畿大会出場である。いつごろだったか一年だけ

昔取った杵柄で軽音楽部の顧問をしたこともあつた。

生来の天の邪鬼で、校務分掌で運営委員の先生方に大変ご迷惑をおかけした。2年目ぐらいのある職員会議でどなたかが「クラス担任は頭のいい確りとした者でない」と仰言つた。以来、「城南では担任をしない」と決め、教務・進路・教務と小林先生、積・橋本・上林の三先生および吉川先生にこれまた大変お世話になつた。

6校長、16年、多くの先生方のお蔭で一番いい城南時代を過ごさせてもらった。城南は私の旧制中学入学と同期開校であり、正に同世代を歩んで来た懐かしい学校である。

### 社会科 上林泰夫

『生徒とともに燃焼し尽くした歲月』城南高校——私の高校教育の原点である。今も懐かしい郷愁に似た思いが甦ってくる。昭和30年代、私は2校目に僻地教育に携わり、厳しい寒さと世間から隔絶した山村の分校から城南高校への転勤の発令を受けた。

着任して驚いた。全校生徒2千人、教職員150人！私の存在など誰も気付かない。何をしてよいやら。1年間はボーッとしてい

る間に過ぎた。

2年目、3年の担任を経験し、進路指導の充実の大切さを知つた。進路部に所属し、先ず就職指導のあり方を模索し、生徒の相談相手になり、種々の企業訪問を繰り返して希望者350人の内定をみたとき、教師には授業だけでは足りない。こんなよろこびもあるんだと気付いた。

以来14年間を進路指導にのめりこんだ。就職とそれが終われば進学の生徒・保護者との面談を学校と夜には自宅でこなし、このようにして多くの人たちとの親密な関係が築けたことが私の財産となつた。

大学訪問、企業開拓、フォロワーから夕方戻って来ると卓球部の指導。夏になると教室へフトンを持ち込み合宿、3年生の就職は五月

に決まるのでその生徒たちが食堂を借り切り食事を作ってくれた。今では到底考えられないがみんなが青春を謳歌していた。

その卒業生たちが城南閉校を惜しみ、昨秋、体育館を借りてOBの卓球大会を催してくれた。最後の城南高校を楽しく味わえたことに感謝している。みんな一途で情に篤く、燃えることのできる素晴らしい生徒であつた。

※上林先生は現在佛教大学体育会卓球部長・監督を務めていらつしゃいます(編集部)。

### 英語科 辻 まさ子

#### 『自主と独創』

「日本の人口、一人増やすのに貢献され、御苦労さん」

長女(現在41歳)出産の産休明けに教壇に立つたら、後ろの黒板に色チョークで大書きされていたフレーズ。何としゃれたセンス！「こんな精神年齢の高い大人を相手にしているのだ」——新米教師は自覚を促された。

日本一のマンモス校。一学年15クラス。一クラス50〜54名。机は最前列から最後列までびっしり。後ろの出入口は開かないのでみんな机の上を渡り歩き、教壇に跳び下り、前から出入りしていた。夏



卓球部女子



1978年頃 放送部が全国大会出場を決めた。番組だけでなく、アナウンス朗読部門も京都府で優勝

は全部の窓を外し、海の家のように。冬は暖房の石炭ストーブが午前中までだった。今と違って経済的な環境は貧しかったが、それ故にか、生徒達は「大人」で、自主と独立の気概にあふれていた。文化祭の演劇も体育祭の出し物も全て自主制作。友人はだしの出来栄であった。青春期のエネルギーの爆発を教員の側も大らかに、温かく受けとめていた。

放送部の顧問を願いだした。NHK杯全国高校放送コンクールの出場に燃えた。市内の常連校が独占していた京都代表の一角を崩すべく特訓を課し、一人が全国大会アナウンスの出場権を得た(昭和49年)。大会会場でドキュメント製作部門を知り、制作着手を促した。

黄檗山万福寺の修行僧のもとへインタビューに押しかけ、真夏の朝の6時から炎天下の2時までねばった。録音を全部書き出し、自分達が直面する進路問題に引き寄せ、見事な番組に仕立て上げた。その自主性と独創性に仕掛人のわたしは舌を巻き、見守るのみだった。

この作品が京都府予選で優勝。府代表となつて全国大会へ出場できた。その後、下級生が見よう見まねであとに続き、一つの伝統となった。東京行きのカンパをOBが呼びかけてくださったことも古き良き時代の懐かしい思い出である。

『閉校に向けての想い』  
前庭の桜の葉が夏風に揺れ、城南高校としての最後の学舎に青々と生い茂っている……。私が「学舎」の立場で本校に入学したのは昭和32年4月でした。日本で初めて原子力の火が点り、ソ連で人工衛星スプートニクが打ち上げられました。

私が「教鞭を執る」立場で本校に赴任した昭和43年4月、この年はGNPが世界で第3位に入り、我が国が今後の繁栄を確信した年でもありました。

### 体育科 石村喜美子

城南の丘はひろびろ……。以後周囲に広がっていた小高い丘も少しずつその姿を消していく中、30数年の間多くの生徒を送り出してきました。この間、担任、分掌、顧問、授業を通じて係りを持った生徒との思い出は数え切れませんが、卒業後、厳しい社会の中で持てる能力を十分発揮して立派な社会人に成長されていく姿に強い感動を覚えたものです。

しかし、私が退職する平成12年頃の数年間は世の中が大きく変貌する時期で、若い人にとって厳しい社会となり、とても悲しい思いをしました。更に、私にとって「学舎」であり「教鞭を執った場」でもある本校が平成21年3月に閉校になることを思うと何とも言えない寂しい気持ちでいっぱいになり

ます。今度新たに「城南菱創」としてスタートすると聞いておりますが、こうした私達の想いを少しでも伝えていただき、地域の教育の中核となりますように強く祈念いたします。

『遅しさと混沌の良き時代』  
私は昭和47年に宮津高校から城南高校に転勤して参りました。列島改造論の頃で府南部一帯も大規模な開発が進行し人口も急増中で、全校集会でも生徒が体育館に入りきれないような状態でした。まだ大学紛争の残滓もみられ、生徒が連絡船で通学していた丹後のはろけき秘境、のどかな宮津とのギャップに当初は随分戸惑いました。しかし、1ヵ月も経つと城南高校の生徒が温暖な風土の中で、楽天的で逞しい自立心を持って高校生活を送っていることがみえてきました。教職員も個性豊かで高い実力を持った親切な方が多く、全体的には調和をもって校務を遂行されているとわかってきました。



平成8年9月 学校祭演劇部門で優勝!

### 商業科 品川良樹

世話になりました。商業科では重鎮の藤田先生を筆頭に浜田、竹内、飯田、山口、根岸、田坂、清水先生などと、教員として多くの経験を積ませていただいた生徒部では水谷、田上、柯、内田先生などと一緒に仕事をさせていただきました。30数キロ?の適応遠足、一時代の特徴でもあった春季討論会、文化祭の高度な演劇発表、体育祭の熱狂的な応援合戦など様々な教育活動や行事が髣髴と目に浮かびます。なお、同期着任した6人の教員(飯田・柴田・松山・来田・渡辺・品川)は四七会という親睦会を結成し、現在も4人で継続しています。縁あつて城南高校で同世代を共有した全ての皆さん、そして同窓会の皆様から感謝申し上げます。

振返るとご活躍されていた諸先生の風貌や言動が懐かしく思い出されます。赴任当時は吉川先生、その後、落合先生の学年部などでお

ます。今度新たに「城南菱創」としてスタートすると聞いておりますが、こうした私達の想いを少しでも伝えていただき、地域の教育の中核となりますように強く祈念いたします。

『遅しさと混沌の良き時代』  
私は昭和47年に宮津高校から城南高校に転勤して参りました。列島改造論の頃で府南部一帯も大規模な開発が進行し人口も急増中で、全校集会でも生徒が体育館に入りきれないような状態でした。まだ大学紛争の残滓もみられ、生徒が連絡船で通学していた丹後のはろけき秘境、のどかな宮津とのギャップに当初は随分戸惑いました。しかし、1ヵ月も経つと城南高校の生徒が温暖な風土の中で、楽天的で逞しい自立心を持って高校生活を送っていることがみえてきました。教職員も個性豊かで高い実力を持った親切な方が多く、全体的には調和をもって校務を遂行されているとわかってきました。



テニス部 昭和50年代半ば頃

# 追悼

## 「齋藤はま先生を偲ぶ」



奈良女子高等師範学校(現奈良女子大学)出身の才媛。古典文芸に造詣が深く、府立第一高等女学校現鴨沂高校

で教諭となられ、同僚の龍村孟雄先生の招きで昭和25年に城南高校に転勤して来られた。以降22年間一貫して本校に国語科教諭として在勤され、昭和47年3月に定年退職された。つとに短歌界では著名な方で所属結社の選者も務められ、退職後は同好者のために月一回の古典読書会を開いておられた。平成18年7月25日にご逝去。享年93歳。(第4回 豊田元彦)

## 「齋藤はま先生のこと」

あの頃から木造の教室は老朽化していた。古文の授業になると、古風で知性的で気品のある色白の美人教諭の齋藤はま先生が教壇に立たれた。私のおこがれの人であった。卒業して先生が歌人であることを知った。すでに歌誌「たまき」の重鎮であった。卒業後にも先生との文通は続き、達筆な書簡は老いても崩れなかった。京都での数人の歌会に先生を誘い、短歌指導を受け、グルメを楽しんだ。先生からいただいた歌集や城南高校時代の写真や先生に関する資料は私設文庫に保存している。(第8回 古川 章)

## 「山崎秀雄先生を偲ぶ」



先生は明治44年、後に初代宇治市長となられた山崎平次氏の長男として宇治市白川に誕生された。菟道小学校から

府立桃山中学校を経て京都師範学校を卒業、小学校訓導に就任された。昭和18年に難関の文部省中等教員検定試験に京都府から唯一人合格、母校桃山中学の教諭となられた。昭和23年10月に学制改革に伴う地域制実施により、宇治・久世以南の生徒とともに城南高校に転勤された。担当の数学では懇切丁寧な指導をされ、生徒指導では厳しさの反面細やかな配慮をもって接せられ、親しみやすいく信頼できる先生として「ズベさん」の愛称で人気を集めておられた。山登りが趣味で、生徒とともに城南アルプスを歩き、比良山や各地の山に登られた。昭和32年に木津高校へ転出、副校長となられ、さらに須知高校、山城高校で校長を務められたが、教諭として生徒に接していたと望まれて定年前に退職され、私立東山高校の教諭となられた。退職後、奥様が亡くなられて寂しくなられたが、教え子が家へよく訪ね、一緒に旅行をしたり山登りをしたりと悠々自適の生活を送っておられた。漢詩を作り、音楽や囲碁など多くの趣味を楽しまれ、また、自動車の運転やパソコンなど新しいものに挑戦して身につける若さを備えておられた。年齢による衰えを感じさせない元気に教えるの方が逆に励まされる思いであった。数年前に軽い脳梗塞から療養生活に入られ、平成19年8月4日にご逝去。享年96歳。(第4回 豊田元彦)

# 学 年 同 窓 会 開 催



日時：平成18年10月17日 場所：京都プリンスホテル

女学校第二回卒業



日時：平成19年4月18日 場所：マリアージュ グランデ

女学校第一回卒業・なぎの会



日時：平成20年5月21日 場所：リーガロイヤルホテル京都

高校第四回卒業



日時：平成19年7月23日 場所：ホテルグランヴィア京都

高校第二回卒業・二十六会



高校第十四回卒業

日時：平成20年5月10日 場所：新・都ホテル



高校第六回卒業

日時：平成19年5月17日 場所：新・都ホテル

昭和37年入学の17期の同窓会は卒業以来休止状態のまま経過していました。

そんな中、創立45周年の記念式典に出席した同級生の間に同窓会開催の声が高まり、平成3年に第1回の同窓会が開催され、120名もの懐かしい顔が集まりました。以降、平成17年までに4回の開催を数えています。

私たちの高校時代は昭和の高度経済成長の真っ只中。当時の池田首相は所得倍増計画を掲げ、日本

高校第十七回卒業



高校第十五回卒業

日時：平成20年4月19日 母校での同窓会



日時：平成17年6月18日 場所：パルティール京都

(中澤 淳子)

経済はひたすら右肩上がりの成長を遂げていました。夢の超特急・東海道新幹線、名神高速道路が開通し、総仕上げのアジアで初めての東京オリンピックが開催されました。

世の中はオリンピック一色に。男子バレーボールの代表チームが我校の体育館で練習を公開し見せてくれたことを思い出します。

同窓会の最後に私たちは校歌と当時流行っていた「高校三年生」を合唱します。手をつなぎ、肩を組んで、これからもずっと歌い続けたいと思っています。城南の丘はひろびろと！

成人式以来20年ぶりの顔合わせとなりました。不惑を迎えた女性陣は一層美しく、厄年を控えた男性陣はおしなべて恰幅が良くなりました。

山田、石村、中村各先生のご臨席をいただき、一同再会の喜びの中に非常に盛会のはこびとなり、新春の年頭を明るく、楽しく過ごしました。

今回の案内人・幹事を務めた西川徳一、廣田文謙、栗原道代、宮野裕司、特に森真由美(打合せ場



第三十四回卒業

『オリンピックイヤーに再会！』

日時：平成17年1月2日 場所：新・都ホテル



日時：平成20年8月15日 場所：ホテルモンテ京都

\*参加者..55名(恩師4名)

野間、藤原、拙くん、そしてみんなにありがとう！

『2回目開催しました』

(中尾 一夫)

\*参加者..93名(恩師3名)

も応援してください。

集まってくれる一人一人が主役となれるような同窓会を続けていきたいと思っています。これから

2回目が開かれているはずですよ。

の協力に心から感謝します。オリンピックイヤー毎の開催を決定したので、この会報が届くまでには

配・運営統括)諸氏(女性は旧姓)

データ整理)、野田貴宏(会場手

所の提供)、岩佐和枝(案内発送・

# OB会だより

## バレーボール部城南会

奥林 博(11回)

### 『白球を追う』

山城の片田舎に「全国に城南あり」と言われた城南女子バレーの軌跡を追う。

昭和21年4月横浜から九門正雄先生が赴任。平屋の校舎が一つ、石ころだらけの広場、バレーのバの字も知らない生徒を集め、円陣を作つてパスをする……これが城南バレーの始まりである。

22年8月、臼井(旧姓 生松)照代先生が赴任。九門先生の綿密な計画性に基く指導力、臼井先生の気配り心配り、選手の不屈の精神力と体力で23年第1回全国高校バレー選手権(西宮)に府代表として出場、まさに快拳である。

24年栗田正男先生が赴任。14年間監督を務められ、城南バレーの黄金期が始まったのである。全国優勝こそならなかったものの、監督の現役バリバリの指導があり、野口重嗣コーチ(故人)を始め、学

校の応援、家庭の支援、部員の努力が城南女子バレーを築いたのである。

選手の中では、高校生で2年連続東西対抗に選ばれた岡田(現姓池内)淑子を忘れることができない。久世中―城南―教育大―鐘紡へと進み、エースアタッカーとして技術抜群であった。教育大に進み2年目に大学一の栄誉を得た。栗田先生の執念が実つた一事であった。男子では同輩の吉川博。チームの大黒柱で33年のインターハイ、



創部60周年記念式典 平成20年4月19日 文化パルク城陽

国体準優勝の立役者であった。卒業後は日本電池に進み、米沢精二氏の指導を受けた。栗田先生、米沢氏と日本を代表する指導者に恵まれ、バレー一筋を歩んだ名選手であった。

当初は正月の日曜日に母校で現役を交えて初打会を行っていたが、58年5月に会名を「城南会」(会長 徳光孝雄)とし、創部35周年の歩みを綴る記念誌を発行した。今年(平成20年)には創部60周年に76名の会員が恩師を囲み記念行事を行った。第4回卒業生「たどん会」、第6回「仲間会」、第11回「栗隈会」を持ち、交流が続いている。※輝かしい戦績は7頁からの年表内に掲載してあります(編集部)。

## 硬式野球部OB会

辻 輝夫(10回)

硬式野球部は昭和25年から大会に出場し、甲子園を目指した府大会で昭和28年の初のベスト4進出を最高に、過去ベスト8が3回と南部の強豪校の勇名を轟かせて来ました。

現在まで500名の球児を輩出しています。また、平成9年から京都高校野球OBで組織する京都



京都500歳野球「城南クラブ」

500歳野球連盟に「城南クラブ」として出場を続けています。

過去、甲子園出場は果たせませんでした。吉水一雄(第5回)、西垣一(第6回)、中坊三三男(第9回)の各氏の活躍は京都野球界に大きな足跡を刻みました。

忘れられないのは昭和36年夏の大会直前の合宿中に松室健雄君が急逝、メンバーは遺影と共にベスト16まで戦い抜きました。その後、現在まで同学年部員達は彼の命日に墓参を続け、同じ汗を流し合った部員達の友情が47年間に及んでいます。

OB会は今回の統合を機に平成18年から城南・西宇治両校野球部に対して同様に甲子園を目指す球児たちへの支援を行っています。

昨秋には「城南菱創高校」として大会に初参加しました。これからは新しい校名での活躍を願っています。今後OB会は支援を続け、城南菱創高校の校歌が球場に鳴り渡る日を期待しています。がんばれ城南菱創高校球児たち!!



母校野球部への支援

## サッカー部OB会

谷口 忠夫(25回)

『初蹴り』 サッカー部OB会は、毎年1月2日に城南高校グラウンドに集い、『初蹴り』を行っている。

初蹴りは、現役高校生との交流を兼ね、現役との対戦はOBにとって大きな楽しみの一つになっている。初蹴りには、現役を含める

と、例年30〜50名の参加があり、私も昭和48年の卒業以降欠かさず参加している。

私達OBにとって初蹴りは、年に一度、懐かしい面々が、練習に明け暮れた母校のグラウンドに一同に会し、高校時代に戻り、サッカーに興じ、サッカーを楽しむ機会でもある。現役戦の他に、参加者で3チームを編成し、2、3試合を行い、心地よい汗を流している。

OBの中には、若い者にはまだまだ負けられないとの気持ちを持ち続け、初蹴りに備えて健康と体力維持に励む者も多い。私も「気



2009年元旦 初蹴り

力」と「体力」を維持するための目標にしている。しかし、ここ数年現役が少なくなり、公式戦も組めない状況は大変残念である。

また、再編により城南高校サッカー部が無くなるのは大変寂しいことだが、城南菱創高校になっても、OB会としては初蹴りを続け応援したいと考えている。併せて、名門(昔は名門と言われていたらしい)復活を切に願うものである。

### 美術部じょうび会

山中 篤(26回)

美術部は山本正洋先生が顧問をされていた58年度の卒業生の方までが「じょうび会」の会員となり、1971年から5月に毎年30名程の方の参加で同窓会を開催しております。

当初は、作品を持ち寄って発表会も行っておりましたが、今では在学中の思い出話に花を咲かせるのみとなっています。

校舎の壁に美術部で制作したレリーフが残っております。この度、城南高校が統合されるそうですが、



校舎とともに残して頂きたいと思っております。

### 放送部OB会

古川 章(8回)

放送部(JBC)OB会は、顧問の高橋義昌先生を囲み、6回卒の松岡尚志、野田弘子両人を段取り役とし、毎年1回新都ホテルで開くのが定番。

集う者4回の小出澄生、中川義雄、友高道子、滝川和子、狩野喜恵子。5回の石井玲而。6回の青山康男、梅田恒弘、江森利夫。7

### 吹奏楽部OB会

西浦 慶則(33回)

母校の閉校は残念でありませんが、歴代の顧問の先生方や諸先輩方からの教えは、心に残っていることでしょう。

吹奏楽部50年の歴史の中に私共



も軌跡を残せたことを誇りに思います。

母校は無くなりますが、吹奏楽部OBの強い繋がりはいつまでも続くことでしょう。

OB会活動に、長い間ご協力を頂きありがとうございました。

ここに改めて御礼申し上げますと共に、みなさまの益々のご発展とご多幸を祈念いたします。

### 演劇部OB会

古川 章(8回)

演劇部OB信平会は、渡辺信平先生を顧問として、松岡尚志さんが代表世話人。年1回で当初は、京・唐橋の渡辺先生宅で発足。家族的なつどい。後ここ数年來、野田弘子氏のご好意で建仁寺内の久昌院で開催。

これまでのレギュラーは、指方晶子、花木尚道、北村正己、林和代、福田孝子、南貴美子、広瀬泰三、武田憲三、向山石原子氏らが多出席者。「渡辺先生和子夫人を偲ぶ会」「サンパレスひらかた」「京四季」等でもこれまで開催。

※理科棟のレリーフ。現在は老朽化のため取り外してあります。

# 学年同窓会開催支援について

学年同窓会開催の際には同窓会から費用の一部を補助します。

## 1. 適用

学年同窓会開催の決定通知があった場合、同窓会より費用の一部を補助する。

学年同窓会開催後は必ず更新後の名簿(卒業回・年・氏名・住所・連絡先TEL等、訂正内容がわかるようにしたもの)1部を担当者宛に郵送もしくはデータ送信する。

## 2. 費用

郵便(往復ハガキ)代100円×発送人数分(上限50,000円まで)を同窓会より補助する。

**【例】 発送人数が365名の場合：100円×365通＝36,500円**ただし、同一学年への支援は2年に1度とする。

開催日から次回開催日までが2年未満の場合は支援できませんのでご承知おきください。

## 3. 担当者・申し込み先

事務局が代行しますので下記までご連絡ください。必要書類を郵送(送信)します。ご返送(返信)確認後直ちに費用をご指定の口座に送金します。

**【連絡先】 中尾 一夫 (高校34回)**

TEL 075-647-1053

E-mail: ezoritsuichidai@yahoo.co.jp

〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-81-215

※学年名簿(紙出力・データ)も提供できます。上記までご連絡ください。個人情報取扱の約束書を送付します。ご返送から発送まで1週間程度です。

費用は基本料金1,000円(用紙出力・CD-ROM・発送費等)+5円×人数分+消費税

**【例】 学年人数が365名の場合**

**(1,000円+5円×365名)×1.05＝2,966円**

## 同窓会からのお知らせ

1948(昭和23)年の旧制女学校第1回卒業生から2008(平成20)年の第60回卒業生(今回の会報発行時点)に至るまで、同窓会の発足以来満60年を迎えました。「還暦」の中には夫婦、家族、親子2代、3代まで卒業生という方がいます。会報をお届けする度に「同じ住所なので会報は1通でよい」というお返事があります。お気遣いはありがたいのですが、同窓会の管理データにはご家族関係は登録していません。20,000通を超える発送数の中から特定の方をピックアップすることの困難を慮りください。基本的に卒業生の全員が同窓会員であり、ひとりひとりの支えが有る同窓会です。個人情報保護に基いて本人からのお断りがあった方、住所不明の方を除いて今回も同窓会員全員に発送をします。城南高校同窓会報最終版として会員の方々全員にお読みいただければ幸いです。※ご意見・ご感想は同窓会ホームページ内のアドレス宛にお寄せください。

# 同窓会ホームページを開設しています



トップページ

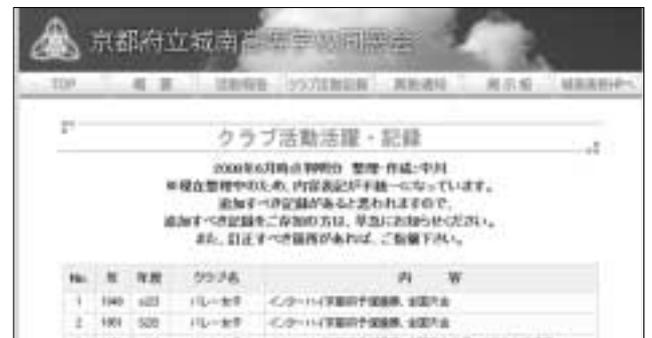
以下のアドレス、名前で検索してください。

<http://www.jyounan-alps.net/>

京都府立城南高等学校同窓会



活動報告



クラブ活動記録





鬼頭 修 中坊 忠明 奥津 佳子 佐野まどか 仲 栄司 名和いずみ 上田 裕子  
 関西 正廣 奥村 栄美子 大西 敏恵 岩崎 恭典 荒田 浩嗣 三村 哲子 上田 裕子  
 三田村 文雄 山北 久可 水野 哲 田中 晶子 吉田 忠康 的場 則子 北岡 豊久 櫻田 賢  
 桜井 治男 中川 加代美 宮脇 浩 森田 真美 市原 一模 宇野 元博 磯 昌樹 磯 昌樹  
 岡井 俊幸 川田 和美 高橋 朱実 戸田 和章 服部 信樹 樋口 明子 三宮美紀子 清水 智  
 皆川 好江 西田 隆夫 奥西 恵美子 山花 克己 濱中 久子 福井 景一 飯田 太郎 花原 千尋  
 小野 典子 柳沢 幸夫 松本 大 菅 淳子 高木 和美 山田 紀之 鳥飼 夏子 飯田 太郎 須藤 和哉  
 辻 篤子 野路佳代子 東 日出夫 高木 和美 岡本美佐子 中川 広子 松田久美子 北岡 高明 須藤 和哉  
 藤川 恭子 岡本やよい 片山ふみえ 岡本美佐子 中川 広子 松田久美子 北岡 高明 須藤 和哉  
 守本 孝造 堤 由子 安藤 善紀 岡本美佐子 中川 広子 松田久美子 北岡 高明 須藤 和哉  
 奥山 洋 森 恵子 石田 貴美子 近江谷乃婦子 上島 ゆき 肥田 孝志 大橋 祐馬  
 小島 厚 志形 順子 田村 孝子 富田 智子 大野 律子 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 祐子  
 竹田 喜章 辻 昭博 田村 治子 佐原 勤 柳 成沢 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 岡山 一男 中川 浩徳 渥美加津代 小川まり子 関田 朗 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 小寺美佐江 松村 憲雄 白井 理子 佐原 勤 柳 成沢 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 小倉 宗俊 新保 和江 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子 井ノ口 程子 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子  
 中島 和代 橋本 満代 岩本ひとみ 高松 博子 白井 理子 佐原 勤 柳 成沢 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 村山 都子 山田 隆俊 高松 博子 白井 理子 佐原 勤 柳 成沢 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 松村 昭夫 橋本 満代 岩本ひとみ 高松 博子 白井 理子 佐原 勤 柳 成沢 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 村田 秀一 古瀬 敬子 堀口 廣之 根小田良子 井ノ口 程子 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子  
 山本 正男 松本 一寛 堀口 廣之 根小田良子 井ノ口 程子 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子  
 武田小夜子 松本 一寛 堀口 廣之 根小田良子 井ノ口 程子 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子  
 【高校20】 柴田きよ子 杉本 和子 竹仲真左子 原 良美 田中 紀子 小川まり子 関田 朗 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校22】 宮本いく子 佐原 広泰 木村 博保 萩野 淳子 栗木 敏行 岡野 則夫 渡部 泉 河瀬 悦子 原田由美子 長谷川博志  
 【高校23】 定村 雅文 浅野 政弘 河瀬 悦子 原田由美子 長谷川博志 長谷川淳子 長谷川淳子  
 【高校24】 志形 順子 田村 孝子 富田 智子 大野 律子 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校25】 堀口 廣之 根小田良子 井ノ口 程子 室崎美弥子 堀口 廣之 根小田良子  
 【高校26】 岡野 則夫 渡部 泉 河瀬 悦子 原田由美子 長谷川博志 長谷川淳子  
 【高校27】 戸田 和章 服部 信樹 樋口 明子 三宮美紀子 清水 智  
 【高校28】 菅 淳子 高木 和美 山田 紀之 鳥飼 夏子 飯田 太郎 須藤 和哉  
 【高校29】 岡本美佐子 中川 広子 松田久美子 北岡 高明 須藤 和哉  
 【高校30】 小川まり子 関田 朗 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校31】 濱中 久子 福井 景一 飯田 太郎 須藤 和哉  
 【高校32】 山田 紀之 鳥飼 夏子 飯田 太郎 須藤 和哉  
 【高校33】 大野 律子 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校34】 村木 匡子 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 【高校35】 市原 一模 宇野 元博 磯 昌樹 磯 昌樹  
 【高校36】 飯田 太郎 須藤 和哉  
 【高校37】 松田久美子 北岡 高明 須藤 和哉  
 【高校38】 富田 智子 大野 律子 藤井千登勢 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校39】 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 【高校40】 森下 秀幸 中村 彩 德永 明子  
 【高校41】 三村 哲子 北岡 豊久 櫻田 賢  
 【高校42】 宇野 元博 磯 昌樹 磯 昌樹  
 【高校43】 三宮美紀子 清水 智  
 【高校44】 飯田 太郎 須藤 和哉  
 【高校45】 北岡 高明 須藤 和哉  
 【高校46】 肥田 孝志 大橋 祐馬  
 【高校47】 倉恒 和典 村上 学司  
 【高校48】 竹田彩映子 村上 学司  
 【高校49】 吉田 憲司 倉恒 和典 村上 学司  
 【高校50】 中村 彩 德永 明子  
 【高校51】 上田 裕子  
 【高校52】 櫻田 賢  
 【高校53】 磯 昌樹 磯 昌樹  
 【高校54】 須藤 和哉  
 【高校55】 大橋 祐馬  
 【高校56】 村上 学司  
 【高校57】 德永 明子

### 会員データ取扱いについて

#### ①利用目的

会報の発行・総会の通知・同期会等各種同窓会活動のため

#### ②登録データの範囲

会員番号・卒業年・回・クラス・氏名(旧姓名)・住所・電話番号・賛助金会費納入状況(年度・金額)

#### ③データの開示・訂正等

保有個人データについては、本人の求めに応じて開示・訂正・利用停止を行う。

#### ④その他

総会・理事会・同期会等各種同窓会の開催のための主催者となる会員(代表者1名)以外の第三者には、本人の同意を得ずにデータの提供を行わない。

## 会 員 数 一 覧

卒業年	卒業回	会員数(内物故者数)	卒業年	卒業回	会員数(内物故者数)	卒業年	卒業回	会員数(内物故者数)
1948(昭和23)	高女1	142(17)	1968(昭和43)	高校20	747(11)	1989(平成1)	高校41	440(0)
1949(昭和24)	高女2	155(12)	1969(昭和44)	高校21	709(16)	1990(平成2)	高校42	452(1)
1949(昭和24)	高校1	50(6)	1970(昭和45)	高校22	699(17)	1991(平成3)	高校43	445(1)
1950(昭和25)	高校2	78(5)	1971(昭和46)	高校23	652(13)	1992(平成4)	高校44	490(0)
1951(昭和26)	高校3*	174(17)	1972(昭和47)	高校24	667(11)	1993(平成5)	高校45	467(2)
1952(昭和27)	高校4	361(55)	1973(昭和48)	高校25	674(12)	1994(平成6)	高校46	405(0)
1953(昭和28)	高校5	360(38)	1974(昭和49)	高校26	668(9)	1995(平成7)	高校47	416(1)
1954(昭和29)	高校6	385(50)	1975(昭和50)	高校27	466(4)	1996(平成8)	高校48	376(1)
1955(昭和30)	高校7	356(35)	1976(昭和51)	高校28	476(3)	1997(平成9)	高校49	354(2)
1956(昭和31)	高校8	393(27)	1977(昭和52)	高校29	442(3)	1998(平成10)	高校50	306(1)
1957(昭和32)	高校9	364(34)	1978(昭和53)	高校30	435(4)	1999(平成11)	高校51	297(0)
1958(昭和33)	高校10	380(26)	1979(昭和54)	高校31	482(8)	2000(平成12)	高校52	318(0)
1959(昭和34)	高校11	407(15)	1980(昭和55)	高校32	386(2)	2001(平成13)	高校53	367(0)
1960(昭和35)	高校12	445(24)	1981(昭和56)	高校33	437(6)	2002(平成14)	高校54	336(0)
1961(昭和36)	高校13	426(23)	1982(昭和57)	高校34	416(3)	2003(平成15)	高校55	288(0)
1962(昭和37)	高校14	455(19)	1983(昭和58)	高校35	419(4)	2004(平成16)	高校56	312(0)
1963(昭和38)	高校15	437(13)	1984(昭和59)	高校36	428(4)	2005(平成17)	高校57	241(0)
1964(昭和39)	高校16	446(22)	1985(昭和60)	高校37	413(0)	2006(平成18)	高校58	249(0)
1965(昭和40)	高校17	536(16)	1986(昭和61)	高校38	422(1)	2007(平成19)	高校59	275(0)
1966(昭和41)	高校18	714(15)	1987(昭和62)	高校39	433(0)	2008(平成20)	高校60	223(0)
1967(昭和42)	高校19	734(20)	1988(昭和63)	高校40	455(1)	合 計		25,781(630)

※高校3回には「2年転校」・「附設中学」各生を含んでいます。

〔物故者は平成20年12月19日時点です。〕

# 京都府立城南高等学校同窓会 会計報告

平成16年度〔平成16年4月1日～平成17年3月31日〕

(単位:円)

項 目		金 額	項 目		金 額
収 入 の 部	前年度繰越金	16,314,791	支 出 の 部	学年同窓会開催補助	167,000
	入会金(平成16年度卒業生)	1,205,000		ホームページ維持管理	155,820
	賛助金会費	3,860		海外研修支援	100,525
	預金利息 外	19,399		各種表彰	510,000
				母校部活動補助	100,000
			卒業生への記念品	234,517	
			郵券費 外	432,094	
	合 計	17,543,050		合 計	1,699,956
<b>次年度繰越額</b>					<b>15,843,094</b>

平成17年度〔平成17年4月1日～平成18年3月31日〕

(単位:円)

項 目		金 額	項 目		金 額
収 入 の 部	前年度繰越金	15,843,094	支 出 の 部	会報発行・郵送料	4,023,170
	入会金(平成17年度卒業生)	1,235,000		学年同窓会開催補助	99,050
	賛助金会費	2,028,780		ホームページ維持管理	181,440
	預金利息 外	99		各種表彰	80,000
				母校部活動補助	160,000
			卒業生への記念品	362,570	
			郵券費 外	446,155	
	合 計	19,106,973		合 計	5,352,385
<b>次年度繰越額</b>					<b>13,754,588</b>

平成18年度〔平成18年4月1日～平成19年3月31日〕

(単位:円)

項 目		金 額	項 目		金 額
収 入 の 部	前年度繰越金	13,754,588	支 出 の 部	学年同窓会開催補助	126,600
	入会金(平成18年度卒業生)	1,355,000		ホームページ維持管理	181,020
	賛助金会費	22,800		各種表彰	50,000
	預金利息 外	22,291		母校部活動補助	170,000
				卒業生への記念品	392,469
			郵券費 外	143,195	
	合 計	15,154,679		合 計	1,063,284
<b>次年度繰越額</b>					<b>14,091,395</b>

平成19年度〔平成19年4月1日～平成20年3月31日〕

(単位:円)

項 目		金 額	項 目		金 額
収 入 の 部	前年度繰越金	14,091,395	支 出 の 部	学年同窓会開催補助	166,800
	入会金(平成19年度卒業生)	1,105,000		ホームページ維持管理	181,020
	賛助金会費	7,600		各種表彰	100,000
	預金利息 外	23,250		母校部活動補助	180,000
				卒業生への記念品	351,015
			郵券費 外	282,737	
	合 計	15,227,245		合 計	1,261,572
<b>次年度繰越額</b>					<b>13,965,673</b>

平成20年度〔平成20年4月1日～平成21年3月31日〕

(単位:円)

項 目		金 額	項 目		金 額
収 入 の 部 (1年間の見込額)	前年度繰越金	13,965,673	支 出 の 部 (1年間の見込額)	学年同窓会開催補助	100,000
	入会金(平成20年度卒業生)	880,000		ホームページ維持管理	181,020
	賛助金会費	3,000,000		各種表彰	100,000
	預金利息 外	22,327		母校部活動補助	150,000
				卒業生への記念品	274,000
				閉校記念事業費	2,050,000
				会報(閉校記念保存用)発行	2,900,000
				〃 郵送料	2,200,000
				郵券費 外	100,000
				予備費(繰越予想額)※	9,812,980
	合 計	17,868,000		合 計	17,868,000

※今後見込まれる繰越額については、統合後の同窓会費及び城南部会費に充当します。

## 平成19・20年度役員

▼会 長	森 美智(2回)	小林征二郎(15回)	佐原 勤(29回)	高橋 晋介(47回)
辻 輝夫(10回)	更谷 幸代(3回)	林 猛雄(15回)	能勢 治彦(29回)	岡本 城児(48回)
▼副 会 長	多賀谷深雪(3回)	北川 恵子(15回)	飯田 清美(29回)	谷本 康之(48回)
鬼頭 修(19回)	小出 澄生(4回)	谷村 稔(16回)	野村 敏(30回)	石橋 昌史(49回)
森 進治(26回)	林 大洋(4回)	桑原志保子(16回)	武尾 正信(31回)	福島 圭吾(49回)
▼会 計	南郷 精利(5回)	石田 繁子(16回)	売間 秀之(31回)	清水 寛一(50回)
城島 貞男(7回)	古川 平吾(5回)	中澤 淳子(17回)	幡谷 真一(32回)	坂本 篤美(50回)
▼常任理事	久保田 亘(5回)	西尾 忠夫(17回)	吉村 裕之(33回)	中村 光男(50回)
藪内マサ子(3回)	石橋 重子(6回)	武田小夜子(19回)	中尾 一夫(34回)	河合 康伸(52回)
豊田 元彦(4回)	樋垣 常信(7回)	中島 和代(19回)	広田 文謙(34回)	椿 純一(52回)
池本 甫(6回)	山本 哲治(8回)	京極 利治(20回)	森 真由美(34回)	石倉 健二(52回)
谷口 洋二(12回)	古川 章(8回)	松林 良周(21回)	実本 裕子(35回)	池田 栄太(53回)
池内 光宏(13回)	木田 武昌(9回)	桐山 弘男(22回)	川北浩太郎(35回)	亀田あやこ(53回)
栗田 淳二(17回)	仲 郁子(9回)	寺元 綾乃(22回)	大村 武則(36回)	川崎いつか(53回)
奥西伊佐男(18回)	若山喜久穂(9回)	小森 雅夫(23回)	元山ゆたか(37回)	川田麻由美(54回)
中川 浩徳(21回)	西村 公一(10回)	吉岡 徹(24回)	千崎 照美(38回)	中田 光一(54回)
谷口 忠夫(25回)	浅見 健二(10回)	森 正子(25回)	尾崎 忠之(39回)	大西 菜穂(55回)
▼会計監査	谷口 實(11回)	田中 信三(25回)	堀 貴博(40回)	竹元 良介(56回)
横田 浩一(18回)	放示 和彦(11回)	北岡 広一(26回)	鈴木 学(41回)	吉岡 正晃(56回)
▼顧 問	石垣 望(12回)	森西紀美子(26回)	吉野 一樹(41回)	藤原 宣顯(57回)
中川 和男(18回)	高木 健二(12回)	西村 一洋(26回)	八木 博司(42回)	渡邊 岳(57回)
谷本 義和(校長)	荒木 正義(12回)	塩川 正博(27回)	桑原 謙二(43回)	石井麻美子(58回)
▼理 事	川越 清(13回)	松下 茂(27回)	平松八重子(44回)	辻 美宙(58回)
北村 秀子(女1回)	佐野 信之(14回)	山本 脩(27回)	波多野一稔(45回)	橋本 卓也(59回)
貸谷 紀子(女2回)	池田 正彦(14回)	藤井 直(28回)	筋 政夫(46回)	河本 幸亮(59回)
岡井紗知子(1回)	厚見 和子(14回)	村司 満(28回)	角田 誠(47回)	友納 万迪(60回)

### 最終版・特別号 会報編集委員会

委員長：豊田 元彦(4回)  
 副委員長：辻 輝夫(10回) 木村 博保(25回)  
 中尾 一夫(34回)  
 委員：藪内マサ子(3回) 城島 貞男(7回)  
 中川 和男(18回) 鬼頭 修(19回)  
 佐原 和男(26回)

※編集の都合上、ご寄稿をいただいた原稿に適宜  
 加筆・訂正を行いました。

### 賛助金会費拠出のお願い

どの学校の同窓会も、発足当初は卒業時の入会金を財源として運営していますが、総会・各種委員会、会報の発行などの諸活動を、年々ふえ続ける会員を抱えて、一定額の入会金の財源で賄っていくことは不可能です。

母校への支援を含めた活動を続けていくためには、同窓会の活動にご理解のある会員の方々に賛助金会費を拠出していただくしか方法はありません。事情をお察しいただき、同窓会の存続のためにふるってご応募賜りますよう、お願い申し上げます。

昭和18年の創立以来、南山地域  
 の学校教育の中心として多くの  
 材を送り出してきた母校城南高  
 校を消す寂しさを抑えつつ、城  
 南同窓会の最後を締めくくる  
 仕事の一つとして、同窓会報  
 最終版の編集に当たってしま  
 した。できれば城南高校66  
 年の歴史を総括するものをも  
 と考えましたが、すでに「創立  
 五十周年記念誌」が刊行され  
 ており、時々会報も出されてい  
 るので、今回はクラブ活動の  
 過去の業績や現況、同窓会  
 としてとりくんできた母校支  
 援事業の総括に重点をおき、  
 また城南高校の閉校に関連す  
 る行事の案内、城南菱創高校  
 の紹介、城南高校同窓会を  
 どのようにならせたか、城南  
 菱創高校同窓会をどのよう  
 にならせたか、城南菱創高校  
 同窓会へと継続発展させてい  
 くかについての現時点での構  
 想をとり上げました。最近、  
 学年同窓会やクラブOB会が  
 よく開かれ、報告が寄せられ  
 ています。閉校後も同窓会と  
 して助成に力を入れていきたく  
 いです。恩師の先生方には、  
 昨年日本藝術院賞を受賞され  
 た杭迫晴司先生に本号の題字  
 を揮毫していただき、また多  
 くの先生方から城南高校の思  
 い出をお寄せいただきまして、  
 誠にありがとうございます。  
 御礼申し上げます。

紙数の制約もあって会員の皆  
 様の期待に十分にこたえられ  
 なかった点があれば、どうかご  
 寛恕ください。

編  
集  
後  
記